

「特別支援教育概論」

教育学部 立入 哉

1. 授業の目的

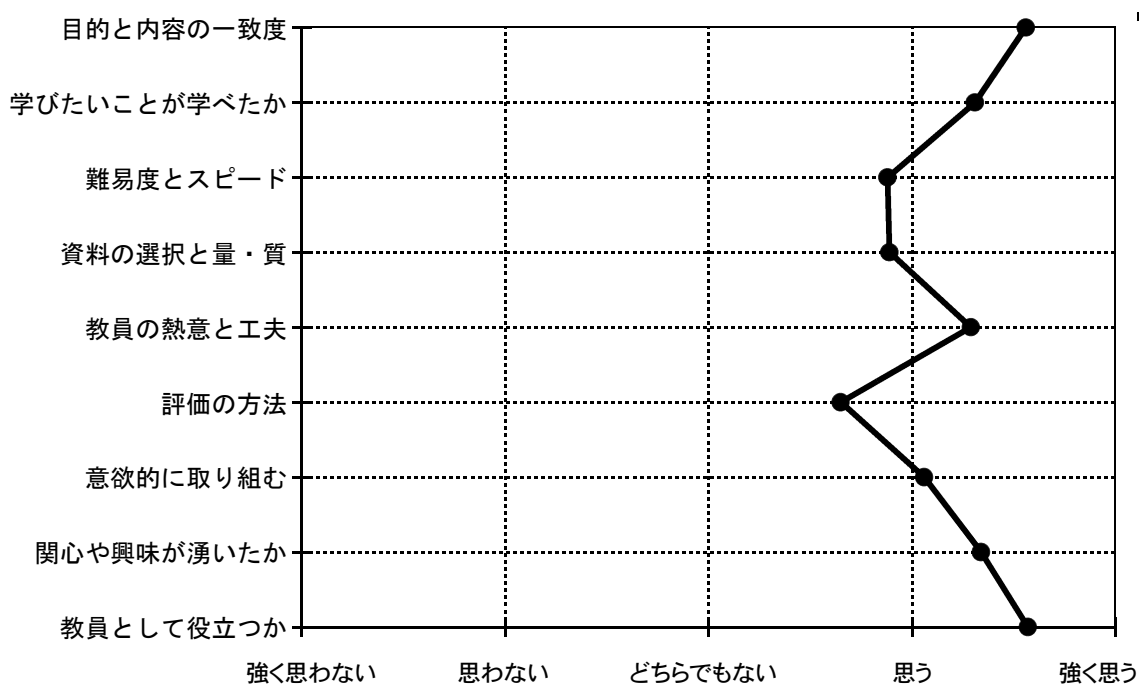
本講義は、特別支援教育の現状を知り、障害児・者の正しい理解と認識を深めるとともに、特別支援教育の本質及び、目標と今日的課題を理解できることを目的としている。

多様な障害に関する知識と、それらの特別な支援を必要とした幼児・児童・生徒に対する授業を考えることができる思考、またこれらの特別な支援を必要とした幼児・児童・生徒と適切なコミュニケーションを行うことができる技能、今後、特別な支援を必要とした幼児・児童・生徒に携わろうと思える意欲と関心、さらに特別支援教育を内包した教育としての教育に携わる教員としての態度を獲得することを目標としている。

2. 授業の内容

授業は下記の流れと内容で実施した。

- 1) 「障害」を見る視点 1
- 2) 「障害」を見る視点 2
- 3) 「障害」を見る視点 3
- 4) 「障害」を見る視点 4
- 5) 介護等体験の概要
- 6) 視覚障害児の教育
- 7) 聴覚障害児の教育
- 8) 知的障害児の教育
- 9) 自閉性障害児の教育
- 10) 肢体不自由児の教育
- 11) 学習障害児の教育
- 12) 特別支援教育と医学の接点
- 13) 注意欠陥多動性障害児の教育
- 14) 重度重複障害児の教育
- 15) 特別支援教育と学級経営
- 16) 最終試験



図：受講生対象のアンケート結果

3. 今年度の改善点

今年度は、受講生が増えることが予想されたため、昨年度まで不評だった狭い教室（大講義室）をやめ、共通教育のグリーンホールで開講することにした。また、遅刻の規定が厳密でない、出欠席がきちんと取られていない、私語が多いといった課題が挙げられていた。このため、座席指定制とし、かつ同じ課程の学生が近い場所にならないよう、列ごとに課程が異なる学生が座るようにするなど、様々な改善を行った。

4. 評価

図に受講生を対象に行ったアンケートの結果を掲載した。おおむね高い評価であったが、「評価の方法」については、最終試験をマークシートで行う、各授業担当者によって評価方法が様々など、多人数・オムニバス講義ゆえの問題を指摘されたと考えている。

自由記述欄には、「生きていく上で必ず出会う何かしらの障害への対処の仕方や理解について学べた」「普段気にも留めなかったことを日常生活の中で気に留めるようになった」「それぞれの教員が専門的な内容を熱意を持って講義してくれ、印象深かった」「最初にビデオを見たり、振り返りをすることがあり、後半の学習につなげることができた」「この講義の内容はどれも新鮮で、かつ教員になった時に役立つ内容だった」「障害児に対する指導が障害を持たない子どもに対する指導に活かされると知り、熱心に学べた」「特別支援教育には全く関心がなかったが、自分の考えが変わるほど、勉強になった」「障害者に関わる機会がほとんどなかったため、この講義は興味深く身になるものであった」「ディスカッション形式の時間は他の学生と話をすることができ、有意義だった」といった授業に対する肯定的な意見が多かった一方で、「プリントの穴埋めや話だけで終わる回もあり、もっと映像などを取り入れて欲しかった」「資料の中には配布する必要がないようなものもあり、もっと選択して欲しいと思った」「介護等体験を受けた先輩の感想を聞いたかった」「授

業時間の終わり時間ギリギリになったときの内容がわかりにくかった」「毎回、講義者が変わるのには良いが、同じことを何度も聞くことになった」「少し極端な意見もあり、すべての学習者に配慮しているとは思えなかった」「資料が各教員でバラバラだったので、もう少しまとまったレジメにして欲しい」といった意見も見られた。

評価の方法については、「最終試験がちょっと難しすぎます」「授業は考え方を換えさせるものだったのに、最終試験が知識や暗記を問う内容で残念だった」「テストの難易度と資料の難易度に差がある」「小テストを行っても、返却されないもので間違っていたのかわからず学習にならなかった」といった意見があり、課題があることがわかった。

また、「出席をカードでピピッとするタイプにしたら、出席取りが楽になると思う」「寝ている人が多いのは静かで良いが、私語や遅刻者がいて、気が散った」「暖房が効きすぎ、暑かった」「プリントや解答用紙の配布をきちんとやって欲しい」「出席を取るタイミングや時間をより明確にしてほしい」といった解決したと思われた事項についても、指摘があった。

5. 総合評価

昨年と比較して、様々な連で点で実施方法を改善したつもりだったが、受講者数が233名になっており、多人数ゆえの問題がより顕在化していることは否めない。特に評価については、233人の成績をどのように処理すれば良いのかという課題があり、根本的な解決には、そもそも2クラスに分け受講者を半分にするなど抜本的な解決方法しかないようにも思える。

一方、遅刻、出席の管理には来年度からは電子的な方法を採用することを考えねばならないと感じた。技術的な方法など解決方法を考えたい。